

## “アジアの時代”の到来 ～ アジア地域の高成長見通しに注目 ～

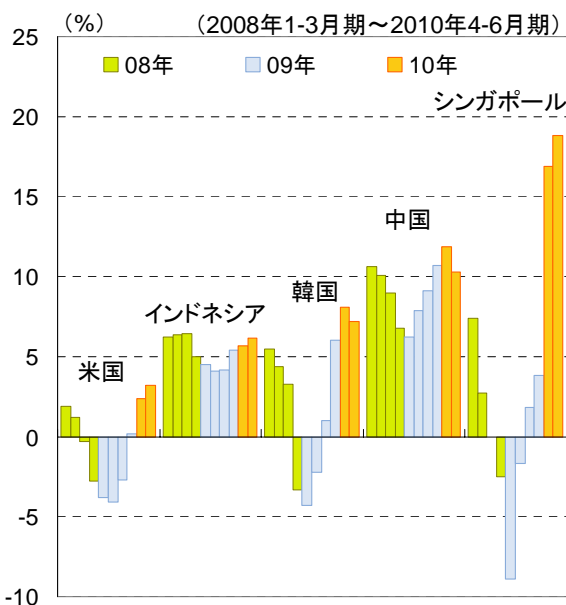
「アジアは世界経済の原動力として浮上した。同地域の経済動向の重要性が今後も増していくことに疑う余地は無い」—IMF(国際通貨基金)のトップであるストロスカーン専務理事は先月このように述べ、“アジアの時代”の到来を告げました。

現在、発表が続いている4-6月期のGDP(国内総生産)成長率は、こうした見解を裏付けており、左グラフのとおり、米国や英国などの主要国の伸びが相対的に冴えない一方で、アジア勢の好調継続が目立っています(今後の発表予定～ユーロ圏:13日、日本:16日、マレーシア:18日、フィリピン:26日)。

世界の景気回復の主な牽引役となっているアジア地域については、日本や、当局が景気の過熱抑制に向けた措置を採っている中国などを例外として、足元で株価が堅調なところが目立ちます。また、アジア主要国の為替相場も、足元の円高傾向により対円でこそ冴えないものの、対米ドルでは概ね上昇傾向にあり、国によっては、世界的な景気回復傾向が好感されて買われた4月末頃の水準を上回り、今年の高値水準となっているところもあります。

欧州などでの財政緊縮の動きや、主要国での企業在庫の復元(積み増し)の一巡などにより、世界景気回復ペースは目先やや鈍化するとみられ、アジア地域についても経済成長のペースダウンが見込まれます。このため、投資家のリスク資産回避の動きが再び高まり、一時的に円高が進む可能性も否定できません。しかし、アジア地域については、足元の成長ペースだけでなく、中長期的な成長見通しが相対的に高い国が多いことなどから、投資家のリスク選好度が回復・安定すれば、アジア主要国の通貨や資産が注目を集める可能性が高いと考えられます。

### 主要国の四半期GDP(前年同期比)の推移



(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※グラフ、データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

### 主要国の為替相場(対米ドル)の推移

